

平成29年度 自己評価表

岡山看護助産学校

評価基準 4：当てはまる 3：ほぼ当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない  
 点数は小項目の平均とする

評価カテゴリー	看護学科の自己評価	助産学科の自己評価
I. 教育理念・ 教育目的・目標 (小項目16)	3.6点	3.6点
	理念・目的・目標は明確であり、教職員も学生も理解している。学生総数約330人、助産学科併設という強みを活かした教育方法の開発を継続していく。また、社会人基礎力を育成できるように、あらゆる指導場面において意図的に関わりをもっている。将来構想について運営会議と入試委員会議で検討を続けている。社会と国立病院機構全体の期待に添える構想を明確にしていく。	
II. 教育課程経営 (小項目33)	3.3点	3.4点
	学生の成長について明確な考え方や根拠をもって教育課程を編成している。単位履修の方法は単位履修を支援するものとなっている。教員が専門性を発揮できるよう担当科目と時間数を配分しているが、教員全員には当てはまらない現状がある。教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	
III. 教授・学習・ 評価過程 (小項目17)	3.3点	3.4点
	学生手帳とシラバスには単位認定のための評価基準と方法を公表しており、学生は活用している。効果的な教育実践に向けてより一層の教員間の協力体制の充実を図りたい。カリキュラム委員会で授業内容の重複や整合性の明確化を図っているが十分とはいえない。講師は得意分野に重点をおいた講義内容となるため、各講師と相談・交渉して整合性のあるカリキュラムを確立する。	
IV. 経営・ 管理過程 (小項目38)	3.6点	3.4点
	教職員は設置者の考えと財政基盤について理解している。意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えている。必要に応じ保護者への情報提供を速やかに行い、協力と支援を得よう努めている。例年3～5名の新任教員が配属されるため、能力開発プログラムに沿った指導・支援を行っている。学生と教職員が元気の出る職場を目指している。	
V. 入学 (小項目2)	3.5点	3.5点
	教育理念との一貫性を持ち入学者選抜を行っている。それを妥当性と教育効果の視点から分析・検証している。看護学科・助産学科共に、応募者数に顕著な減少はないが、看護専門職としての適正がある学生確保に向け一層努力していく。	
VI. 卒業・就職・ 進学 (小項目8)	3.1点	3.5点
	卒業時の到達状況及び就職・進学状況・国試合格状況を分析し、進学指導に活用している。卒業後の支援体制は整備できていないが、同窓会との関係を密にして情報収集に努めている。病院ガイダンスや病院説明会で来校された際に卒業生の状況を聴き把握するようにしている。	
VII. 地域社会 国際交流 (小項目11)	3.0点	2.7点
	学校行事やボランティア活動を通して地域のニーズを把握するよう努めている。ボランティアサークルもあり、積極的に地域活動や献血活動に参加している。国際的視野を広げるための環境は整えることができていない。また、海外からの留学生の受入れ体制も確立していない。継続した課題である。	
VIII. 研究 (小項目4)	3.0点	3.5点
	教員が積極的に研究活動に取り組めるための時間的・財政的・環境的保障はある。教員の研究活動を助言する体制もある。全教員が研究活動に取り組んでいるが、全員が発表することはできていない。数値目標の達成に向け努力したい。	